

令和4年度
(2022年度)

自己評価・学校関係者評価 報告書

令和4年10月 実施
令和4年12月 作成

西武調理師アート専門学校
(令和3年4月1日より校名および校地変更)

I. 評価の基本方針

自己評価について

1. 自己評価実施方法

学校長、事務長、教員及び職員の代表で構成される自己点検評価委員会を構成し、評価項目の設定及び点検・評価を行う。

2. 評価について

評価は、「4 (適切)」、「3 (ほぼ適切)」、「2 (やや不適切)」、「1 (不適切)」の4段階の評価として明記し、項目に対しての年度の「具体的方策と取り組み」を明記し、「取り組みのあり方とその成果」について評価し、次年度に向けたあるいは長期的な計画に基づく「成果と課題」として明記する。

3. 自己評価の項目

自己評価の項目は以下に示す10項目を大項目とし、評価項目(質問)と具体的方策と取り組み、内部評価、成果と課題として明記する。

なお評価項目については「専修学校における学校評価ガイドライン」(平成25年3月生涯学習政策局)を参考とした。

・大項目

- | | | | |
|-------------|--------------|---------------|----------|
| (1) 教育理念・目標 | (2) 学校運営 | (3) 教育活動 | (4) 学修成果 |
| (5) 学生支援 | (6) 教育環境 | (7) 学生の受け入れ募集 | (8) 財務 |
| (9) 法令等の遵守 | (10) 社会・地域貢献 | | |

4. 教育目標と計画

(1) 学校の教育目標

本校は専門知識と技能を修得し、ホスピタリティの心、情緒豊かな人間性を養い、社会に有用な人材を育成することを目的とする。

(2) 学校としての思い

入学時の願い(将来の希望)を実現させるための教育環境を提供し、具体的には国家資格取得と就職へ向けた支援に取り組む。

(3) 重点目標と計画

- ① 退学者を減らす。
- ② 就職内定率を上げる。
- ③ 学習環境の整備を徹底する。
- ④ 学ぶ意欲を向上させる取り組みを実施する。
- ⑤ 教職員が学生各自に向き合い学習支援を行う。
- ⑥ 広報活動の適正化を進め、衛生系で活躍したい学生を確保する。
- ⑦ 学生の就職支援を徹底し、また就職に値する人間形成指導を行う。
- ⑧ 教職員の教育力を向上させる。
- ⑨ 学びたい学校、学びたくなる学校、学びに応える学校づくりを推進する。

5. 評価項目の達成及び取り組み状況

※評価点「4 (適切)」、「3 (ほぼ適切)」、「2 (やや不適切)」、「1 (不適切)」

内部：学校教職員による自己評価

学校関係者評価について

1. 目的

- ①自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2. 評価のポイント

- ・自己評価結果の内容が適切か
- ・自己評価結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- ・学校の重点目標や評価項目等が適切か
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か

3. 評価結果の公表・活用

- ・学校関係者評価委員会等はその評価結果や今後の改善策等についてとりまとめ、広く公表する
- ・学校は評価結果を改善方策の検討において活用し、次年度の重点目標の設定や学校運営や教育活動などについて具体的に改善を図る。

Ⅱ. 重点目標

1. 重点目標

教務部門および管理部門

- ・卒業率 100%。
- ・卒業までの就職内定率 100%。
- ・予算の適正執行ならびに財務の基盤安定を図る。
- ・募集目標を達成する。

2. 取り組み・方策

- ・支援テスト・小テストの実施及び成績不良者に対する補習の強化。
- ・就職説明会や就職案内の早期実施と内容の充実化に向け、教務および事務の協力体制をとる。
- ・技術習得のための実習・演習の重質を図る
- ・コストを意識し予定外の支出を抑制する。
- 各媒体の見直しを行い効果的な募集活動を行う。
- ・学生ひとり一人に対するフォローを強化し、長期欠席を減らす。
- ・SNS 等活用し、学校の存在を広くアピール。

3. 成果・結果

- ・卒業率 100%
- ・卒業時就職内定率：100%
- ・学内環境を改善し、より勉強しやすい雰囲気になっている。
- ・募集目標の達成

西武調理師アート専門学校 自己評価委員会

委員長 : 学校長
副委員長 : 統括事務長
 : 事務長
委員 : 教員
 : 教員
 : 教員
 : 広報担当 (グループ校 西武学園医学技術専門学校)

※令和4年10月に上記自己評価委員にアンケート調査を実施

学校関係者評価委員会

卒業生 : 石橋 親 様

関係企業 : 原 亮 一 様 (広告代理店勤務)

関係企業 (就職・実習先) : 秦野 浩司 様
(DINING RESTAURANT Ro-se オーナー)

関係企業 (地元企業) : 五十子 浩基 様
(有限会社ミネ五十子印刷 代表取締役社長)

開催日時 : 令和4年11月13日 (日)

出席者 : 上記 学校関係者評価委員会 4名

学校事務局 学校長、統括事務長、事務長、教員、職員

実施方法 : 今年度の自己点検評価報告書を基に、
各規準項目ごとに説明を受け、評価を行った

Ⅲ. 大項目毎の記述

(1) 教育理念・目標

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・理念・目的・育成人材像は定められているか	・教育目標は学則にかかげ、入学時に学生便覧を配布し、理念・目的等の話を丁寧に行っている。また学校案内、各教室にも掲示し、意識づけがなされるようにする。	4
・学校における職業教育の特色は何か	・職業人として、また専門職として即戦力となる実学教育に重点をおいた教育内容を実施している ・オアシス運動の徹底。	4
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	・教育目標や理念などを学校の教室に掲示している。 ・学校案内、HP、学校新聞等にも理念、特色、将来像、学園の取り組み等を記載している。	4
・業界のニーズに向けて方向付けられているか。	・年1回校外実習施設の実習先からの意見を取り入れ、本校の学生のイメージと必要とされる職業人としてのイメージをとらえるようにする ・本校教職員が外部関連団体等に参加し、業界の情報を取り入れていくようにしている。	4
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・社会のニーズをとらえるため、実習施設と連携をとりながら講義内容に反映させるよう取むようにしている。 ・先輩からの講演や特別実習など、現場の生の声を強く伝える取り組みを考えているが、飲食・サービス関係は新型コロナの影響が大きく、様子を見ながら実行をしていきたい。 ・入学後のオリエンテーションで、本校の方針（教育方針・建学の精神・校訓等）を丁寧に説明している ・食を通じて、技術だけでなく社会人として責任あるものこそが全ての人々の人生を豊かにする食のすばらしさを、継承できる職業人育成に取り組んでいる 		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響があると思うが、少しずつ元通りの学園生活を送らせてあげてほしい。 ・新型コロナがどのように影響するのか、特に飲食・サービス業の動向を知る機会となるので、卒業生講演や特別実習の機会を行ってほしい。 ・学園の特色・将来像・取り組み等を周知するために、SNS等を活用し、時代に合わせた方法で行ってほしい。 ・評価は適正だと思う。 ・「オアシス運動」は社会に出ても大切なことなので継続してもらいたい。 		

(2) 学校運営

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・ 目的に沿った運営方針が策定されているか	・ 予算等については前年度後半にまた教育、事務部門の方針については年度のはじめに学校全体で会議を行い決定する。	4
・ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	・ 部門ごとに年度はじめに学校全体で会議を行い決定する。	4
・ 運営組織や意志決定は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	・ 最終的な決定権は理事長、学校長にあるが、部門がそれぞれの運営組織として機能するよう配置する。	4
・ 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか。	・ 部門ごとの長による意志決定システムを構築している。	4
・ 業界や地域社会に対するコンプライアンス体制は整備されているか。	・ 各種規則、規定等を整備しコンプライアンス体制を整備し運用していく。	4
・ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	・ HP、学校新聞等に教育活動の掲載での情報の開示をしている	4
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	・ 財務、教務、広報と連動した情報システムを構築し効率化を図れるよう整備する。	3
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・ リニューアルオープン2年目だが、今までの実績プラスαの成果が出るように取り組んでいく。 ・ 年度の初めの会議を通して運営方針を決定し学校運営は教育的な部門ではほぼ目的にそって計画的に運営されていると思う。 ・ 授業評価の定期的な実施をしていく。 結果を各担当にフィードバックし、次年度に向けた授業改善に取り組んでいく。 ・ 少子高齢化により社会は激しく変化、人口減少、財政難等の課題も深刻化している中、近年「チーム学校」が提唱されています。これからの時代に求められる学校教育を実現するためには、教員の資質能力の向上とともに、教員が専門性を発揮できる環境を整備することが必要。 昨今グループ校の垣根を取っ払ったコラボもできるようになった。 		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> ・ リニューアルして歴史ある場所なので、過去の実績をアピールしつつ、挑戦して行ってほしい。 ・ 経営＝学生数となるので、運営と経営のバランスをとることが肝要である。 ・ 学園全体の協力体制は大切なことなので、今後も取組をお願いしたい。 ・ 評価は適正である。 		

(3) 教育活動

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	・教育理念に従い、教育課程の編成・実施方針を策定し、学生便覧として学生に配布する。	4
・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	・教育到達レベルや学習時間について学生便覧に必要時間数を記載したカリキュラム表を明記し、講義要項に教育到達レベルを明記する。	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	・指定規則及び指導要領に従い編成を行う。	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	・実践的な教育を行うと共に、科目の連携を図り、キャリア教育を充実させている。あわせて、校外施設見学を設けて早くからの意識づけを行う。	4
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか。	・校外実習先指導者と密に連絡を取り、実習前教育、実習内容の見直しを行う。	4
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか。	・年1回 約10日間(昼間部)の校外実習実施している。また産学連携によるインターンシップや実技、実習等を実施していく。	4
・授業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか。	・現在のところ行っていない。	1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	・成績評価、単位認定の基準は学生便覧に明記し、またその内容については、入学後全体説明で分かりやすく丁寧に説明していき、学校として教育のレベルの確保に努めていく。	4
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	・指定規則及び指導要領に従ったカリキュラム編成である。	4
・人材育成目標に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか。	・専任教員全員が必要となる国家資格を有し、欠員が生じた場合には補充する努力を行っている。 ・また経験豊富な兼任教員を確保している。	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか。	・業務提携等を行っていないが、実習先等の卒業生を特別講義等をお願いし、現場との連携を図っていく。	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	・関連学会や研修会に参加できるよう案内を行い、参加を促す。	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	・教職員のための内部での研修を計画・実施し、外部研修については積極的に参加できる体制を強化する。	3

成果と課題

- ・最終的には内定獲得という明確な目的があり
その目的に到達できるよう教育レベルは設定されている。
- ・実習における実践的な教育により実習先からは良い評価を受けている。
- ・各企業様からのフィードバックをもとに教育内容の見直しをはかっている。
見直された内容については出来るだけ速やかに対応することとしていきたい。
- ・学生便覧に成績評価基準を明記しているが、より良い評価を得られるよう
指導体制を強化していく。
- ・外部研修（校外実習以外）も機会があれば積極的に取り組んでいきたい。
- ・学生便覧などに教育理念～学生到達レベルなど記載し、ていねいな説明をしている
- ・調理に関する高度な知識や技術と共に、コロナ禍で食品の安全と衛生が求められている。
- ・ノロウイルスによる食中毒や、H A C C Pによる衛生管理など調理現場から
知識を身につけてほしいと要望があるので、理解を深める必要がある。

学校評価コメント

- ・地元根付いた学校で有名なので、積極的に教育の質の高さを広くアピールして
いてほしい。
- ・より良い教育内容になるようにしていってもらいたい。
- ・H A C C Pによる衛生管理は重要なことである。調理現場は現場のよって千差万別
であるが、衛生の基本は同じなので応用と対応できるようになってもらいたい。
- ・社会のニーズにマッチした実践教育を継続してもらいたい。
- ・評価は適正である。

(4) 学修成果

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・就職率の向上が図られているか。	・就職相談は担任を中心に履歴書の書き方、面接指導等を行う。 また、年間を通じてには就職説明会や就職案内等を行う。	4
・資格取得率の向上が図られているか。	・卒業と同時に資格取得なので、退学者が出ない運営をしていく。	4
・退学率の低減が図られているか。	・退学率低減のため、学年担任制により、担任が毎朝出席確認や生活習慣の指導等を行い、無断での遅刻や欠席を確認し、学生の様子をチェックする。	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	・具体的な評価機構は設けていないが、関連学会にて卒業生の活躍を確認し、卒業生の声を拾うようにする。	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	・実習先には多くの卒業生がいるため、実習中の挨拶回り等で責任者から、卒業生の様子を伺い、それらを学校の教育活動に積極的に取り入れている。	4
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業までに多くの内定獲得のため、継続した就職の斡旋と指導をしていく。 ・目先の事にとらわれずに長期的な目線で就職活動をするように指導していく。 ・今後必要とされる知識は、調理師に対する指導だけでなく、サービス産業全般に対応できる人材育成の教育システムを構築する必要がある。 ・就職活動時、コロナが終息していない場合が想定できるが 学生が不利にならないよう取り組み、卒業後も求人等があれば案内をしていく。 ・今年度はホテル・飲食業界から求人情報が多く寄せられている、学生も積極的な就職活動が行われている。 ・高評価をうけている企業人事部から本年度も依頼がくる中、学生の就職先を不満に思っている保護者もあり、学生、保護者との就職に関する連絡を密にする必要がある。 		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> ・今年もホテル・飲食業界から数多くの求人をもらっていることから、学校の教育システムにブレがないことがわかる。 ・実践的な授業を取り入れており、学生本人のキャリアアップを期待したい。 ・評価は適正である。 		

(5) 学生支援

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	・担任と事務局が共同しながら支援を行う。	4
・学生相談に関する体制は整備されているか。	・担任が面談を通し相談を受ける体制を整えると共に、事務局も含めて支援を行う。	4
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。	・事務局に奨学金担当をおき、相談の窓口とする。 ・高等教育無償化の対象校として申請する予定で、経済的困難な学生に支援を行う	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	・年1回健康診断を行い、近隣医院の医師を専任として契約を行い、相談できる体制をとっている。	4
・学生の生活環境への支援は行われているか。	・担任によりアンケートや面談を行い、生活環境を確認し、問題がある場合に相談にのり、必要であれば保護者を含めた三者面談等を行う。	4
・保護者と適切に連携しているか。	・入学式において保護者に学校説明を行い、定期的に文章や一人ひとりの出欠席・成績などを保護者と共有して学生支援を行っている。	2
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	・近隣の中学、高校からの職場体験、体験実習を受け入れる。	2
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・学内に学生相談室をもうけ就職関係資料を整え閲覧できるようにしている。 ・学生相談については担任制により学生から相談しやすい環境づくりをし、担任以外の職員もいつでも相談を受けられる体制づくりをしている。 ・心理面（最近多くなってきている）での相談が最近非常に多く学校側もその相談に応えられるような体制が必要。 ・保護者と連携をとり、定期的に文章や一人ひとりの出欠席・成績などを保護者と共有して学生支援を行っている。 ・毎年近隣の高校、中学校から体験実習を受け入れているが、コロナ禍のため、中止になっている。ZOOM等で出来ないか工夫が必要。 ・就職活動時、コロナが終息していない場合が想定できるが学生が不利にならないよう取り組み、卒業後も求人等があれば案内をしていく。 ・日本学生支援機構等国の教育ローンがある中、各々学校では独自の個人に合わせた納入制度が増えてきている。手続きに戸惑わない、入学者学費分納システム（本校独自の育英制度）の取り組みが必要。 		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で就職活動に制約が出ているかと思うが、学生の希望や適性を踏まえた上で適切な就職指導を行ってほしい。 ・退学者・休学者が出ないように日頃からの学生のケアが必要だと思う。 ・卒業後も転職等の支援が必要になることがあるので、支援体制を整えてほしい。 ・評価は適正である。 		

(6) 教育環境

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・養成所指定規則及び養成所指導要領に従った施設や設備を用意。 ・館内全てリニューアルし、LED化、館内wi-fi化、全ての実習台を新台と交換、実習室にモニター完備、トイレは洋式など学生が安心して技術・知識習得できる様にする。 	4
<ul style="list-style-type: none"> ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・養成所指定規則及び養成所指導要領に従った実習施設と契約し、校外実習を行っている他、特別講義では現職者を講師として実習を行っている。 	3
<ul style="list-style-type: none"> ・防災に対する体制は整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災責任者をおき、職員間で防災体制を確認し、学生に指導できるようにする。 ・マニュアルを作成し、備蓄食（学生全員に約3日分）を確保し、緊急時に備える。 	4
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍だが、状況を見ながら今後もさらに実習施設との連携を強化していく。 ・現場からの声を入れた教育を構築していく。 ・災害時、緊急時用の備蓄食（3日分、在校生全員分）を備えている。 ・今後も防災、セキュリティ管理、安全管理、健康管理の向上・強化を図る。 ・コロナ等の感染予防対策をとっていく。 ・防災訓練の実施で、災害非常食と地産地消で防災意識の向上、地域貢献、食品ロス防止の観点から非常食の扱い、アレンジをして提供することによって非常時の対策に取り組んでいる 		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> ・昨今の自然災害の多さで、非常食の大切さや環境保全のための食品ロス防止に力を入れているのは評価できる。 ・学校内以外の授業が増えると良いと思う。 ・小中学生や社会人対象の開放講座をやったら良いのではないか。 ・館内のLED化やWi-Fi化は教育環境を整える上で大切なことだと思う。 ・評価は適正である。 		

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・学生の募集活動は適正に行われているか。	・定員の上限・募集時期を守り、アドミッションポリシーに合う学生の募集を行う。また高校訪問、会場ガイダンス等で高校生や入学希望者に対し情報提供を行い、的確な人材確保に努める。	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	・年度更新による各種媒体のデータ見直しを通して、入学相談室にて正確な情報共有に努める。	4
・学納金は妥当なものとなっているか。	・学納金は妥当な金額と考えている。しかし、経費削減等の見直しを徹底し学生への還元を最大限に考える。	4
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・入学定員を充足できるようにしていく。 ・今後少子化が進み、他校との競争が激しくなるため定員充足にむけて様々な取組みを図る必要があると考えられる。 ・学生募集環境は常に変化しているため、求められている情報を迅速かつ適正に発信できるように努めていく必要がある。 ・SNSの活用、ネット広告の活用の強化などの必要がある。 ・より良い環境で学生が勉強できるように学納金の見直しは必要かと思う。 ・学納金については、さらなる消費税の増税にあっては、適性に教育が行えるように学納金の見直しを検討していく必要がある。 ・専門学校はリカレント教育であることを強調し、学校法人のグループ校を卒業した人やその家族が入学しやすくするための策（経済的優遇制度）を導入し、学びやすい環境であることをアピールしていく。 ・調理師科（昼間部）を希望する社会人経験者については国より「専門実践教育訓練給付金制度」の認定を受けていることをアナウンスし、一定の要件を満たせば教育訓練経費（授業料等）の一部がハローワークより支給される旨を伝え、社会人入学の動機づけを行う。 ・コロナ禍で経済的な問題で進路変更する学生が出てくる可能性があるため国の奨学金、民間の奨学金等も合わせてチェックし学生の受け入れ態勢を整える。 ・外国人留学生の教育を取り巻く状況が変わりつつあり、教育現場で支障のない日本語力をもとめてきたが、職業人としての専門性を備える留学生人材養成の為の取り組みが必要となっている 		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> ・学納金の額は学園として、最大限努力していると思う。 ・学生の受け入れ募集は大切なところなので、評価4はまだ遠いと思う。 ・SNSや動画を駆使し、受験生にもっと訴求できるコンテンツの作成が必要だと思う。 ・昨今、経済的に厳しい受験生が多くなっているため、学校説明の時にしっかり奨学金制度の説明をしっかりとできるようにしてもらいたい。 ・評価は適正である。 		

(8) 財務

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	・短期的なものだけでなく、中長期の計画をたて、蓄財として今後にも備えるよう努める。	3
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	・年度当初の予算から大きく乖離しないよう、また予算計上していない予算外の支出に対しては、全体的な財務状況と照らし対応している。	4
・財務について会計監査が適正に行われているか。	・監査については外部からの監査を受けるようにするほか、公認会計士による定期的な監査も行っていく。	4
・財務情報公開の体制整備は出来ているか。	・自己点検及び評価を通して財務の適正さに努める。	4
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・予算と乖離しないよう予算執行に努める。急な出費に対しては全体を照らしバランスよく執行していくよう努めている。 ・外部監査については理事会に依頼し、平素は公認会計士より定期的な指導を受けている。 ・財務諸表の整備の見直しを図っているので、早急に対応する。 		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> ・安定した入学者がいないと、財政基盤が揺らぐので毎年の入学者を確実に獲得できるようにしてほしい。 ・リニューアルして間もないが、コスト意識をもって臨んでもらいたい。 ・評価は適正である。 		

(9) 法令等の遵守

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	・学校評価を行い、法令、専修学校設置基準に従って運営を行う。	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	・学生の個人情報は、指定のコンピュータのみで管理する。 ・学生に個人情報保護についてのガイダンスを行う。	4
・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。	・自己評価委員会にて評価を行い、問題点について各課の責任者に提示し、改善を促す。	4
・自己評価の結果を公開しているか。	・自己評価および学校関係者評価をホームページ上で公開していく。	4
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価を行い、法令や専修学校設置基準に従って運営を行う。 ・入学当初に個人情報保護について説明を行い、同意を得るようにする。 ・自己評価を行い問題点の改善に努め 更に学校評価委員で意見を仰ぎ、今後の参考にしていく。 ・自己評価、学校関係者評価は本校ホームページに公開している。 ・コロナ禍により遠隔授業を行うに当たり、個人情報の流出防止に努めている。 		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> ・ネットを使う頻度の高まりによる個人情報の漏洩については気を付けてもらいたい。 ・HPの更新を定期的に行い、受験生に旬の話題を提供してほしい。 ・評価は適正である。 		

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的方策と取り組み	評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	・学園祭や健康講座などを開催、市民に向けた料理教室を展開していく。	3
・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか。	・市との官学連携を活用したメニュー開発の実践。 ・地域活性化、地産地消として「所沢ブランド特産品」として学園祭の際に紹介し、販売ブースを設けていく。	3
・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか。	・地域の要望を取り入れ、料理教室などを積極的に行っていく。	3
成果と課題		
<p>今年コロナ禍ではあったものの学園祭を3年ぶりに実施した。 来場者は1日で200名を超え、各ブースともに賑わいを取り戻した。 調理師科においては、焼き立てパンや中華丼・オムライスを提供し、予定数が閉会時間より早く売切れ、盛況であった。県庁からのイベント実施時のガイドラインを遵守しつつ、感染症対策をしっかりと行い無事に終了することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから実施するイベントの規模、対象者、感染防止をしっかりと検討し、行えるものは行っていく方向で考えている。 ・「すべてを中止にすればいい」という考え方は持っていない。 ・毎年行っている「サラダコンテスト」は所沢市の農業振興課の職員を招き、所沢産の新鮮な野菜を使い、今年も感染防止対策をしっかりとったうえで実施し、読売新聞、埼玉新聞、テレビ埼玉でも取り上げられた。 ・今後も所沢市とコラボでイベントが行えるように取り組む。 ・グループ校の西武学園医学技術専門学校 栄養士科は所沢市とコラボで商品開発等を行っているので、次年度はそれらに参加できるようにしたい。 ・毎日行っている学校周辺の清掃を徹底して行っている。 ・特定非営利活動法人やボランティア団体などが、無料または低額で食事を提供する「子ども食堂」や学習を支援する場など、「子どもの居場所づくり」の取組みに、学生が参加している 		
学校評価コメント		
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であったが、学園祭を開催できたのは良いことだと思う。学生たちにとっていい思い出になると思う。 ・学校行事や外部の研修、イベントなど学園生活はとても充実していると思う。コロナに負けず、逆境にさらされても地域と協力して、学生に惜しみなく様々なことを体験させていくのは評価できる。 ・地域貢献の活動は大切なことなので、定期的に取り組んでもらいたい。 ・評価は適正である。 		